2018
Spring

HDA REPORT

Hokkaido Design Association Report

北海道デザイン協議会

デザインされた全てのモノには相応の価値があり、値段があります。
それこそが、「デザイン力」の価格となります。
デザインの必要性や重要性は、多くの人が認識し、興味を持っています。
そして、多くの企業や行政などではデザインをいかにして取り入れ、
どのように活用するか。そのプロセスとシステムづくり、
デザインのコストに対して不安があるようです。
デザインは身近なものです。
デザイナーは数々の疑問に対し、
解決する能力と努力が必要だと思います。
デザイン活動は、デザイナーだけの問題ではありません。
社会環境と時代の要望に対応できる柔軟性と適応力も求められます。
デザインの発展は、デザイン業界のみならず、多方面の人との
新しい出会いによって、多様な刺激が生まれ、新しい活路を
見出していけるものだと思っています。
北海道デザイン協議会への一層のご提案とご協力をお願い致します。

会 長　菅原　耕治

北海道デザインアワード 2016

デ協初の会員参加型表彰事業 北海道デザインアワード 2016

北海道デザイン協議会初の全会員参加型表彰事業として実施された「北海道デザインアワード 2016」。会員の作品を会員自らが選び、北海道のデザイン活動を評価＝表彰することで、道内の優秀なデザイナーの存在と実績をより多くの人に再認識してもらうことが、このアワードの目的でした。

作品の応募は 2016 年6月20日から7月31日の期間で行われ、会員部門は 17 名、46 作品（グラフィック 33 作品、プロダクト 3 作品、ファッション・テキスタイル 5 作品、建築 5 作品）、一般部門は推薦者 12 名から 23作品（グラフィック・サイン・ディスプレイ・イラスト 13 作品、プロダクト・クラフト 6 作品、建築 4 作品）。あらゆるジャンルのデザイナーが集まる当協議会の特徴を表すものとなりました。

審査は第一次、第二次、最終の 3 回行われ、会員部門は伊藤友一氏の「IFDAグラフィック」、一般部門は 8 作品がデザイン協議会賞に決定。その他、入賞作品は 12 月 1 日にセンチュリーロイヤルホテルで開催された表彰式・受賞記念パーティーの席で発表されました。

実行委員会では、全受賞作品を掲載した記録集を制作し、全会員に配布しましたが、あらためて、北海道のデザインの実績や可能性を知ることができる事業となり、数々の不手際はあったものの、事業としては成功を収めたと言えると思います。

アワードの開催は 2 年に 1 回を予定し、今年 2018 年度も新たな企画で実施を予定しています。会員の皆さんには、今から応募作品の検討を始めるよう、よろしくお願い致します。

（レポート アワード実行委員会）

高岡の伝統工芸「高岡漆器」
高岡工芸センターにて
左・「高岡漆器盆」右・新製品「木製靴べら」

富山総合デザインセンターにて説明を聞く参加者一行

富山・高岡デザイン文化視察旅行

2017 年 11 月 16 日（金）～ 18 日（日）　参加者／ 7 名（団長・栗坂）

歴史が息づくデザインのまち 工芸品の見学や地元協議会と交流

2016 年 11 月に実施した「台湾産業・デザイン視察旅行」に続き、2017 年度は11月16 日～18日の2 泊 3 日の日程で、「富山・高岡デザイン文化視察旅行」が催行されました。参加者は企画を立案した栗坂会員を団長に菅原会長、角本専務理事など 7 名。1980 年代に当時の中沖豊知事が「デザイン立県」を提唱して以来、デザインでものづくりを支える富山県の視察は実に有意義で、刺激的なものとなりました。

古くは越中の国と呼ばれ、日本海に面した人口 106 万人余りの富山県は、北前船の寄港地であったことでも知られ、立山連峰から流れる 7 河川で発電した電力を活用したアルミ精錬メーカーが産業の一角を担っています。また、製薬・売薬も盛んで、高岡地域では銅器や漆器などの伝統産業が息づき、それらの製品の付加価値向上をデザインが支えていることも注目すべき点です。

視察旅行は16日の午後から始まり、最初に富山市立富山ガラス造形研究所を見学。続いて、8月26 日にグランドオープンしたばかりの富山美術館に移動し、この日から始まった開館記念展パート 2「素材と対話するアートとデザイン」を見学しましたが、美術館スタッフのコスチュームが素晴らしく、聞くと、イッセイミヤケが手掛けたものだそうです。また、ホテルへのチェックインの前には富山県富岩運河環水公園を散策し、富山の自然と運河を生かした都市の美しい姿を見ることができました。

２日目は、富山県北西部の高岡市にある世界的鋳物メーカー「能作」を訪問。2017 年 4 月にオープンした本社工場では、400 年にわたって培われてきた鋳造作業の工程が見学できるほか、能作の食器を使ったカフェも併設された美しいフォルムの建物で、製品のデザイン性の高さは目を見張るものがありました。

午後からは、富山の商品の開発を支援するデザインの拠点、富山県総合デザインセンターを見学し、次に高岡市デザイン・工芸センターを訪問。最後に、今回の視察の目的の一つである（公社）富山県デザイン協会を訪れ、相互の活動や作品の紹介をしながら、親交を深めました。

最終日は、加賀藩二代藩主前田利長公の菩提寺である国宝瑞龍寺の仏殿などを参観した後、格子造りの家並みが続く金屋町で明治・大正時代にタイムスリップした感覚を味わい、富山空港から羽田経由で札幌へ。

歴史とデザインが融合する富山・高岡の視察旅行を終えた参加者には今回の体験が今後のデザイン活動に役立つものと期待しています。

（レポート　栗坂秀夫）

電話ボックス塗り直しを終え、参加者全員で記念撮影

旧双葉幼稚園

三都市＋１デザイン交流会議 in OBIHIRO

2017 年 9 月 9 日〜10日

道内のデザイン団体が交流
電話ボックスの塗り直しを体験

旭川（２団体）、函館、帯広の各デザイン協議会と北海道デザイン協議会が毎年、各都市のデザインでの交流を目的に開催している三都市＋１(プラスワン)デザイン交流会議が2017 年 9 月 9､10 日に行われ、札幌からは菅原会長、伊藤副会長、栗坂会員、角本の 3 名が出席。伊藤副会長は旭川デザイン協議会の会長として参加し、とかち帯広デザイン振興協議会（大宮美紀子会長）の主催のもと、約 40 名が帯広に集いました。

初日は、国の登録有形文化財の宮元商産旧本社ビルで各団体の活動発表を行い、十勝産の食材を使った地元レストランのケータリングを囲みながら、親睦を深めました。大正８年建築の同ビルはかつて味噌や醤油の醸造や「ヤマト」の屋号でラムネやサイダーを製造していた宮本商産の建物。モダンな外観を見学し、現在も保存されているサイダーも見せてもらいました。

２日目に訪れた、帯広の森体育館前にある電話ボックスは、とかち帯広デザイン振興協議会（当時は帯広デザイン振興協議会）が 1990 年に開催した「デザインワークショップおびひろ〜都市と自然が共生する地域イメージづくり」の中で生まれたアイデアで、ガラスの囲いのない風を感じる電話ボックスがコンセプト。92 年 12 月 15 日に完成し、しばらく放置されていたものを2004 年に建築士会などの協力を得てリニューアルし、現在のカラフルなデザインに生まれ変わりました。その後は毎年、ペンキを塗り直し、周辺清掃などの環境整備も行っており、今回の交流会議のメイン事業として、参加者がペンキの塗り直しを体験しました。

大宮会長はこの事業について､「先輩が残してくれたものを今後も守っていきたい」と話し、交流会議は盛況のうちに閉会しました。また、希望者へのオプションとして、通常は一般公開していない旧双葉幼稚園を見学する機会にも恵まれました。

次回、2018 年の三都市＋１デザイン交流会議は当会が主催となり、9 月に開催する予定です。

（レポート　角本大弘）

会長の挨拶で始まった2018年度通常総会

終始和やかな雰囲気の中交流を深めた懇親会

2018 年度 総会・懇親会

2018 年 2 月 3 日（土）　於・ホテルノースシティ

2018年はアワード開催
来賓迎え、賑やかに親睦深める

2 月 3 日、北海道デザイン協議会2018 年度の通常総会及び懇親会が、札幌市内のホテルノースシティで行われました。まず、午後 5 時からの総会には理事・役員の過半数を満たす18名が出席。菅原会長の挨拶に続き、2017 年度の事業報告並びに決算報告、2018 年度の事業計画（案）並びに予算（案）の議案について、満場一致で承認が得られました。

2018年度については、デザイン活動を通じて、デザインの価値と文化性を地域社会に生かすという会則に掲げられた当協会本来の目的に立ち返り、組織の拡大と強化を図ることを確認し、①会報の発行、②会員・協賛社の拡大、③年次業務（理事会・総会等）の実施、④会員活動・委員会活動の設定と活発化のほか、協議会の法人化やマス媒体とのタイアップが検討事項として提案されました。

また、2018年度事業計画では、第 2 回デザインアワードの開催（12月初旬）、三都市＋1 会議 in 札幌の開催（9月1日〜2日）、2019〜 2020理事選挙の実施（11月 16 日投票締切、11月 18 日開票）、各種セミナーの開催が提示され、各事業の実施と成功を確認し合いました。

続いて、午後 6 時からはホテル内の元チャペルの会場に移り、懇親会が開催されました。札幌市経済観光局国際経済戦略室クリエイティブ産業担当係長の太田貴之様、札幌商工会議所産業部地域振興・ものづくり課次長の下辻潤一様、同課野原聖良様をご来賓に迎え、会員、賛助会員合わせて 35 名での懇親会はご来賓からの祝辞、北海道インテリアプランナー協会会長の佐藤利明様の祝杯で宴会へと突入しました。

祝宴中にはデザイン関連で交流のある団体として、日本商環境デザイン協会北海道支部の中屋恵美様、北海道インテリアコーディネーター協会副会長の西風裕幸様、北海道イラストレーターズクラブα会長の西村昌実様、平和紙業の山崎真佐志様から、それぞれメッセージをいただき、恒例のプレゼント大会はビンゴゲームで盛り上がりました。最後は三善副会長の乾杯でお開きとなり、各種デザイナーの垣根を越えたデザイン協議会ならではの総会・懇親会のプログラムを終了しました。

北海道デザイン協議会が協力した
札幌デザイン史コーナーの設営風景

設営中の会場風景

真剣な眼差しで審査する審査員たち

札幌国際芸術祭の制作に協力

「札幌デザイン開拓使 サッポロ発のグラフィックデザイン ～栗谷川健一から初音ミクまで」

2017年8月6日から10月1日までの約2カ月にわたって開催された「札幌国際芸術祭（SIAF）2017」。当会はこの企画の一つとして、JRタワープラニスホールにて展示・開催された「札幌デザイン開拓使 サッポロ発のグラフィックデザイン」に「札幌デザインウイーク2015」のパネル展示で制作した札幌デザイン史のデータを参考資料として提供し、企画・制作に協力しました。

札幌のデザインの起源は開拓使時代の明治期にさかのぼり、北極星をイメージして作られた五稜星のマークは現在もサッポロビールのロゴや時計台などで見ることができます。この五稜星を七稜星にデザインし直したのが北海道開拓使長官を務めた黒田清隆。この黒田の提案は政府に認められなかったものの、およそ100年の時を経て、七稜星のマークを復活させたのが、当会の初代会長であり、北海道のデザイン界の父と称される栗谷川健一氏でした。

会場では、後に北海道旗のエンブレムとなった七稜星を筆頭に、栗谷川氏が手掛けた札幌オリンピックの招致ポスターをはじめとする冬季オリンピック関連のポスターやピクトグラム、企業のロゴマークや初音ミクまで、札幌のデザインの歴史をさまざまな角度から紹介しました。

（レポート　三善俊彦）

北方領土の日ポスターコンテスト審査員に３名が協力

毎年、北海道からの依頼で審査員を派遣している「北方領土の日ポスターコンテスト」が2017年11月15日に道庁赤レンガ庁舎2階会議室で行われ、菅原会長、堀会員、伊豆倉の3名を含む6名の審査員が厳正な審査に臨みました。

応募作品は一般の部243点（うち学生216点）、こどもの部は図画作品495点（小学生281点、中学生214点）、ぬりえ289点。審査員の持ち点による投票によって、一次審査で各部門60点に絞り込み、二次審査において各賞が決定しました。

最優秀賞及び優秀賞の作品は一年間、ポスターや各種印刷物で北方領土関連の啓蒙活動に利用されます。

（レポート　伊豆倉　靖）

梅村会員の著書

伊藤会員のペーパーリース

越智会員のディスプレイ

■月刊誌「さっぽろ経済」でデザインを PR

札幌商工会議所が発行する「さっぽろ経済」の「専門家からの提案書」コーナーに３名の会員が提案者として登場。2016 年 12 月号では、越智真紀子会員がファッションデザイナーとして、参加・変化・競争・情報・感動の５つのキーワードで、業績を伸ばすためのアイデアを提案。2017 年 1 月号では伊藤友一副会長が、デザインを活用した企業の課題解決を提案し、2017 年 2 月号では新貝孝之会員が、街のデザイン遺産を掘り起こすことの重要性をアピールしました。掲載面は「さっぽろ経済」のホームページで閲覧できます。

https://www.sapporo-cci.or.jp/web/public/

■梅村会員が「神社」の本を出版

2017 年 12 月 8 日、北海道新聞社から、梅村敦子会員の著書となる「御朱印帳とめぐる北海道の神社 70」が発行されました。約1年半をかけ、道内 70 の神社を参拝し、神社の歴史や境内の雰囲気、祀られている神様などを実際にいただいた御朱印とともに紹介している大人のためのガイドブックです。

A5版、128 頁、定価1,620円。道内の有名書店をはじめ、道新の販売店を通じて購入できます。

■「光の抜け道」展に伊藤会員が作品を出展

2017年 12 月 19 日から 24 日に開催された大丸藤井セントラル企画展「光の抜け道」に伊藤千織会員がペーパーリースを出展。ヒンメリ作家・山本睦子氏と画家モリケンイチ氏の個展をつなぐ通路をさまざまな作品が飾るクリスマス時期にふさわしい幻想的な展示会となりました。伊藤会員はペーパーリースカードをアレンジするワークショップも行い、参加者にペーパークラフトの魅力をアピールしました。

■札幌三越のウィンドウディスプレイ

巧みにデザインされた金属のボディにマグネットを使用して形を作り上げる越智真紀子独自の一作品。

――ファブリックアート――

（札幌三越本館 6 階オチマキコショップにて 3 週間ごとにテーマを変え常時ディスプレイ）

REPORT

理事会報告

2017-2018 理事

会長　菅原耕治

副会長　伊藤友一、三善俊彦

専務理事　角本大弘

理　事

伊藤千織、伊豆倉靖、梅村敦子、大阪克彦、越智真紀子、木下泰男、栗坂秀夫、佐藤正人、新貝孝之、高野大賀、伊達昌廣、徳中康弘、平塚知恵美、堀じゅん子

●2017 年度理事会開催報告

第 1 回（2017.1.17）

第 2 回（2017.3.14）

第 3 回（2017.5.16）

第 4 回（2017.7.18）

第 5 回（2017.9.19）

第 6 回（2017.11.21）

※会場は全てパルティス会議室

●2018 年度理事会開催報告

第 1 回（2018.1.16）

パルティス会議室

2018 年度通常総会・懇親会

（2018.2.3）ホテルノースシティ

（中央区南 9 西 1）

委員会紹介

北海道デザイン協議会では 5 つの委員会を設け、活動を展開しています。委員長はじめ、委員の皆様には一層活発な活動をお願い致します。

■アワード 2018 委員会

デザインアワードの企画立案、運営など

委員長／大阪克彦

委員／三善俊彦、伊藤千織、堀じゅん子、徳中康弘、梅村敦子、角本大弘、伊豆倉靖

■会員委員会

会員の増強、交流会の開催、入退会者の把握など

委員長／徳中康弘

委員／木下泰男、新貝孝之、伊藤千織、中森明子

■広報委員会

会報の制作、Web（HP、FB）の管理・運営、デ協内外への広報など

委員長／伊豆倉靖

委員／高野太賀、梅村敦子、竹内直樹、徳中康弘

■事業委員会

セミナー、勉強会、イベントの企画立案など

委員長／三善俊彦

委員／平塚知恵美、栗坂秀夫、三浦啓子、奥本隆、二ノ宮信広

■総務委員会

各委員会との調整、会計・事務業務など

委員長／佐藤正人

委員／堀じゅん子、きたむら千鶴

広報委員会より

■広報委員会では、デ協の活動や会員の活動の内外へのより広い情報発信と会員間の情報共有をめざし、現在 web サイトのリニューアルに向けた作業を進めています。

Facebook との連動やスマホからも見られるようにし、情報更新も適時行っていく予定です。リニューアル公開までもうしばらくお待ちください。

■この度、北海道デザイン協議会の一年間の活動をまとめた広報紙を作成しました。

先日の総会にて 2018 年度は様々な事業計画が予定され、盛りだくさんの一年となりそうです。

この会報でデザイン協議会を少しでも多くの方に知っていただき、より活発な活動となるきっかけとなれば幸いです。

北海道デザイン協議会　　2018.3.31 発行